



ワードは…

## 酒米「吟烏帽子」



貧乏神くん

### 大吟醸に適した新品種

青森県産業技術センター農林総合研究所（黒石市）が開発し、品種登録を出願した県南地方向け酒米の品種名が「吟烏帽子（ぎんえぼし）」であることが21日、分かった。農林水産省が同日までに出願を公表した。  
(2017年12月22日付2頁)

▷吟烏帽子は山形県の酒米「山形酒86号」（出羽の里）と、同研究所が開発したうるち米を交配した酒米の新品種。県産酒米「華吹雪」「華想い」より耐冷性に優れ、熟期が2～4日程度早いという特性を持つ。

同研究所は、県南地方の酒

造会社や農家と4年間にわたって共同で研究して優良品を確認。品種名は、県南地方を象徴する「えんぶり」で用いる格調高い烏帽子と、こうべを垂れた稲穂の姿を重ねて命名した。

吟烏帽子は精米時の割れが少なく、玄米の外側をより多く削る「高度精米」が可能のため、大吟醸酒など高級志向の日本酒にも適している。酒造会社の試験では良質な清酒が製造されているという。

同研究所は、本格的な作付けに向け、本年度内に県の認定品種指定を目指す。共同で研究する八戸酒造（八戸市）、桃川（おいらせ町）、鳩正宗（十和田市）の3社は18年産米での商品化を予定している。地元産の酒米を使った新たな地酒が誕生しそうだ。

(佐々木萌)

平成30年1月11日デーリー東北 掲載

この画像は当該ページに限ってデーリー東北新聞社が利用を許諾したものです。